

平塚市地域公共交通網形成計画 評価指標の達成状況及び令和 6 年度 of 取組実績

(評価指標は、計画 74 ページ記載の内容に現在の実績値を追記)

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標	令和 6 年度 of 取組実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(1) ①鉄道の利便性向上の促進 ・既存路線の利便性向上の促進 ・鉄道駅の新設・延伸の促進	JR 平塚駅の利用の促進 ※1 日あたりの乗車人員 ※JR 東日本 HP(各駅の乗車人員) ※将来の人口減少の比率を考慮する	約 62,000 人／日 (平成 29 年)	現状維持	<既存路線の利便性向上の促進> 神奈川県鉄道輸送力増強促進会議に要望を提出 (11 月) ⇒資料1-5参照	55,356 人／日 (令和 5 年度) ※出典：JR 東日本 HP 各駅の乗車人員 2023 年度 ベスト 100 未達成
(1) ②バスの公共交通軸の整備・強化 ・幹線バスの整備・強化 ・南北都市軸の新公共交通システムの整備	路線バスの利用割合 ※PT 調査 (交通手段分担率) ※平塚市におけるバスの移動が対象	約 2.9% (平成 20 年) 東京都市圏パーソントリップ調査 (平成 20 年)	現状から増加	<幹線バスの整備・強化> 路線再編 (経路変更) により、1 2 月 1 6 日から平 7 3 系統・平 7 7 系統「平塚駅北口～東海大学前駅南口」の運行を開始 ⇒資料1-6参照	約 4.7% (平成 3 0 年) 東京都市圏パーソントリップ調査 (平成 3 0 年) 達成

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標	令和 6 年度の実績実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(1) ②バスの公共交通軸の整備・強化 ・走行環境の向上	路線バスの旅行時間 ※路線バスの移動時間調査 ※厚木方面(平 53)、伊勢原方面(平 90)、秦野方面(平 71)	平塚駅着(7時, 17時) ・平 53(約 48 分, 約 45 分) ・平 90(約 37 分, 約 30 分) ・平 71(約 62 分, 約 66 分) 平塚駅発(7時, 17時) ・平 53(約 54 分, 約 61 分) ・平 90(約 40 分, 約 26 分) ・平 71(約 53 分, 約 68 分) (平成 21 年)	現状から短縮		既存路線の時間短縮は無し (新たな運行系統を設定) 未達成
(2) ①地域内交通の整備 ・既存路線バスの確保・維持、改善 ・路線バス以外の地域内移動手段の確保	交通の利便性の向上に対する満足度 ※平塚市市民意識調査	評価点-0.02% (平成 30 年)	現状から向上	【岡崎地区】 岡崎地区地域活動推進会議にて協議を実施し、「岡崎地区の交通課題に関するアンケート調査」を実施 <u>⇒資料3-1参照</u> 【神奈川大学移転関連】 5月30日、9月30日、1月30日に意見交換 <u>⇒資料1-7参照</u> (参考)【地域内移送】 須賀新田地区(松原地区)、土屋地区、旭南地区 <u>⇒資料1-8参照</u>	評価点-0.01% (令和 4 年) ※出典：令和 4 年度平塚市市民意識調査 p.48。5 段階評価で、十分満足 2 点、満足：1 点、普通：0 点、あまり満足していない：-1 点、満足していない：-2 点で計算 達成

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標		令和 6 年度の実績実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(3) ①バリアフリー 化の推進 ・新規車両の導入	ノンステップバスの導入台数 ※平塚市バリアフリー基本構想の実施事業 ※評価指標の目標値は、「平塚市バリアフリー基本構想」に基づく事業計画の目標年次及び目標値が変更された場合に、その変更後の目標値を準用する。	96 両／163 両 (平成 29 年)	115 両／163 両 (令和 2 年度) 本計画策定時の目標値。平塚営業所の在籍車両の約 70%に導入した場合の両数	128 両／160 両 (令和 7 年度) 平塚営業所の在籍車両の約 80%に導入した場合の両数	<新規車両の導入> 【ノンステップバス】 電気バス（ノンステップ仕様）： 5 両導入 <u>⇒資料 1-9 参照</u>	130 両／160 両 (令和 6 年度末) 平塚営業所在籍車両の約 81% うち 7 両は電気バス (ノンステップ仕様) 達成

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標		令和 6 年度の実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(3) ①バリアフリー 化の推進 ・新規車両の導入	UD タクシーの導入台数 ※平塚市バリアフリー基本構想の実施事業 ※平塚市バリアフリー基本構想の実施事業 ※評価指標の目標値は、「平塚市バリアフリー基本構想」に基づく事業計画の目標年次及び目標値が変更された場合に、その変更後の目標値を準用する。	13 台 (平成 29 年)	29 台 (令和 2 年度) 本計画策定時の目標値。国の導入目標台数を元に設定した台数	62 台／245 台 (令和 7 年度) 国の導入目標の改正により、県内の導入率が約 25%とされたことから、平塚市内の在籍車両に本割合を当てはめた台数	平塚市内に在籍する車両として、UD タクシーを 10 台導入(見込)	45 台／245 台 (令和 6 年度末※見込) 平塚市内の在籍台数の約 18% 未達成

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標	令和 6 年度の実績実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(3) ②交通結節点の整備 ・バス停の待合環境改善 ・サイクル&バスライド施設の整備	主要バス停上屋の設置箇所数 ※平塚市バリアフリー基本構想の実施事業 ※「平塚市バリアフリー基本構想」の実施事業に関する評価指標の目標値は、今後、「平塚市バリアフリー基本構想」に基づく事業計画の目標年次及び目標値が変更された場合に、その変更後の目標値を準用する。	84箇所 (平成29年)	86箇所 (令和2年度) ※「平塚市バリアフリー基本構想」に基づく事業計画では令和3年度から令和7年度までに「現状から増加」を目標としている。	<バス停の待合環境の改善> 【バス停上屋】 「コンフォール平塚前」バス停(本厚木駅方面、平塚駅方面)への上屋設置 【バス待ちスポット】 吉沢公民館(寺前橋バス停)、城島公民館(城島小学校前バス停)、保健センター(湘南車検場前バス停)の3か所に「バス待ちスポット」を開設 <u>⇒資料1-10参照</u> 【平塚駅北口の乗車環境改善】 平塚駅北口12番のりば(東八幡工業団地方面)の乗車整列ラインの位置を変更し、混雑時の整列状況を改善 <u>⇒資料1-11参照</u>	88箇所 (令和6年度末) 平塚市、神奈川中央交通、民間等設置分で上り、下りを別々に集計。増加分は、ツインシティ大神バス停、コンフォール平塚前(乗車1か所、降車1か所ずつ計4箇所) ※バスロータリーで3つ以上の上屋がある場合、上り、下りで1箇所ずつとカウント。 達成

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標	令和 6 年度の実績実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(3) ②交通結節点の整備 ・バス停の待合環境改善 ・サイクル&バスライド施設の整備	平塚駅周辺 駐輪場の収容台数 ※平塚市行政概要	11,714 台 (平成 29 年)	現状から増加	需要に応じた駐輪台数を設定	11,774 台 (令和 4 年度末) 達成
	バス停付近 駐輪場の設置箇所 ※平塚市行政概要	8 箇所 (平成 29 年)	現状から増加	<サイクル&バスライド施設の整備> 「湘南車検場前」バス停サイクル &バスライドを平塚市保健センター敷地内に整備(見込) <u>⇒資料1-12参照</u>	14 箇所 (令和 6 年度末 ※見込) 増加は玉川橋、大縄橋、片岡、中沢橋、柳の内、湘南車検場前の 6 箇所。他に神奈川中央交通(株)が田村車庫に設置 達成

施策体系 施策メニュー	評価指標	計画策定時の 調査時点	目標	令和 6 年度の実績実績	中間評価 (最新の実績値と達成・未達成状況)
(4) ①利用促進事業 ・ 情報提供の強化 ・ 地域内移動の利便性向上 ・ 利用者インセンティブの付与 ・ 公共交通利用への意識啓発	公共交通の利用割合 ※PT 調査（交通手段分担率）のうち、平塚市における鉄道およびバスの移動が対象	約 16.4% （平成 20 年） 東京都市圏パーソントリップ調査（平成 20 年）	現状から向上		約 21.1% （平成 30 年） 東京都市圏パーソントリップ調査（平成 30 年） 達成
	交通の利便性の向上に対する満足度（再掲） ※平塚市市民意識調査 ※（2）①と同様	評価点-0.02% （平成 30 年）	現状から向上	<バス乗り方教室の開催> 神奈川中央交通株式会社とともに、9 月 20 日（金）及び 21 日（土）にツインシティ大神バス停及び周辺道路にて、EV バス試乗会等を実施。EV バスの PR 及びバスロケーションシステムを案内するチラシを配布 ⇒資料 1-13 参照 <情報提供の強化> 12 月上旬に北金目・真田地区の一部自治会に対し、「平塚駅北口～東海大学前駅南口」路線の時刻表を配布	評価点-0.01% （令和 4 年） ※金額式 IC 定期券導入（令和 3 年～） ※小児 IC 運賃 50 円化（令和 5 年～） 達成